



呉トピックス



▲色付を見極めながら収穫する石井組合長



初夏を告げる味覚 蒲刈スモモ出荷

6月中旬、くれ選果場で初夏を告げる果物と称されるスモモの出荷が始まりました。本年産は好天に恵まれ、内容品質は糖度12度以上と高く、果実肥大も良好で上等な仕上がりに。「大石早生」を筆頭に

主力品種の「サントローザ」、希少品種の「紅りょうぜん」などピーク時には一日に約2,000パックを荷受け、出荷します。蒲刈スモモ生産組合の石井芳清組合長は、着色や熟度を見極めながら収穫した後、自宅で大きざや着色状況により仕分け、出荷基準を順守し丁寧に詰めていきます。ピーク時には収穫作業に追われるため、選果場のパック詰め請負を積極的に利用します。石井組合長は「1カ月間という限られた期間の貴重な果実。市場や消費者に旬を感じられる蒲刈スモモを楽しんでもらいたい」とPRします。



園地視察受け入れ 江田島野菜出荷組合胡瓜部会

江田島野菜出荷組合胡瓜部会は6月中旬、広島県学校給食会「学校給食だより」の編集委員(同給食会職員、広島県教育委員会指導主事、広島県栄養教諭)と広島市教育委員会分室の視察を受け入れました。

江田島市にある同部会小松真也組合長のキュウリハウスを案内。栽培現場を伝え、学校給食の普及充実と地産地消、食育の推進に役立ててもらうことが目的。小松組合長と同JA江田島アグリセンターの渡辺一弘職員が対応。江田島きゅうりの特徴や栽培方法



▲キュウリ栽培について話す小松さん(Ⓜ)

などを説明し、市場に近いこと、鮮度がよいこともPRしました。「学校給食だより」をつくる編集委員は「当たり前前に食卓へ上るキュウリがこのようなハウスで、様々な過程を経て栽培されていることに驚いた。とてもよい勉強になった」と話しました。

税務相談



呉地域では下記に記載している場所・日時で税務相談を行っております。税に関する様々なご相談などに対応させていただきますので、ぜひご利用ください。

【場所】 呉地域 農協会館 2階
【相談日】 第2・第4金曜日
午前10時～午後4時
【お問い合わせ】 0823-25-1200
(呉地域 総務管理課)

【場所】 中町支店
【相談日】 第1・第3金曜日
午前9時30分～午後3時30分
【お問い合わせ】 0823-45-2848
(中町支店)

※上記相談日が急遽変更となる場合がございますので、事前にお問い合わせください。



施肥防除指導に繋げる 水稲展示圃場調査

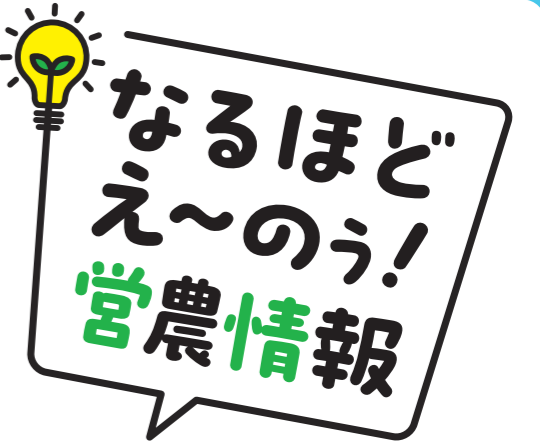
呉地域営農経済センター営農販売課はJA全農ひろしまと共同で管内の水稲産地である郷原、苗代、柝原地区の展示圃場13カ所を2024年度産水稲の定点調査を行っています。

調査結果は記録を積み上げ、栽培層の作成や生産者へ効果をフィードバックし、施肥防除指導に繋がります。6月下旬には郷原、苗代地区の田んぼ8カ所を調査。田んぼに作っておいた50cm四方の枠で薬剤を全く使わない対象区と初期処理をした処理区



▲抜いた雑草を確認するJA職員ら

の雑草の本数や種類を記録。生産者も立ち会い、薬剤の効果を確認しました。同課の弘永明子営農指導員は「圃場ごと、多少の差はあるが順調に生長している。薬剤施用の有無の差を確認し、収穫までしっかりと調査して生産者のために役立たい」と話しました。



落葉果樹

イチジク

▽新梢管理

枝が密生していると、葉によって果実の表面にスレ傷が発生したり、日照不足による着色不良果が増えるなど、外観品位が低下します。枝が混んでいる所は枝抜きを行ないましょう。

▽灌水

夏季の高温乾燥は、果実肥大を鈍らせ落葉を引き起こすこともありま。晴天が続くようであれば灌水を行ないましょう。

家庭菜園

高温時に備えた対策

高温になると、植物体の呼吸量の増加による消耗や水分ストレスの影響を受けやすくなります。また、土壌に水分が少なくなると乾燥すると、土壌中の石灰やホウ素が作物に吸収されにくくなるため「カルシウム欠乏」等の欠乏症発生リスクが高まります。

対策として、定植後の活着を順調に進め、根の健全な生育状態を保つことが必要です。定植直後〜2週間までの間は、適度な水分管理を行ないましょう。

強い日差しは定植直後の作物にとって大敵です。活着後、順調に成長するまで寒冷紗などで強い日差しを防ぐことも高温対策として有効です。

▽高温対策に有効な資材

【資材名】カキパック

【特徴】

- ・保水成分として「トレハロース」を20%配合してあります。水をしっかりキャッチする保水効果が蒸散を抑えるとともに、萎れた時のダメージを最小限に抑えることができますと考えられています。
- ・植物体へのカルシウム補給効果があるため、カルシウム欠乏症の予防に効果的です。

▽収穫

いよいよ、今月から収穫が始まります。イチジクは収穫適期が短く、収穫が早すぎると糖度の低い果実となり、逆に収穫が遅れると過熟となり日持ちの悪い果実となりますので注意が必要です。適期採取に努め、果実温度の低い早朝に行ないましょう。また、降雨直後に収穫した果実は、カビや腐敗が発生しやすくなるので注意が必要です。

カキ

▽強勢樹のせん定

樹勢の強い樹は、枝を切り戻しても、幾度も強勢な枝が反発し発生すると思います。そのような樹は、盆過ぎから9月上旬にかけて、せん定を行ないます。

9月中旬頃から、冬に向けて樹体内に養分を貯蔵する時期となります。貯蔵が始まる前に葉数を減らすことで、貯蔵養分を少なくし、樹勢を落ち着かせやすくなります。せん定時期が、早くても遅くても効果は発揮しないので、適期にせん定を行ないましょう。

▽台風後の対策

先月までは摘果時期でしたが適正量まで摘果できましたか？夏から秋にかけて台風襲来の時期と

・微量元素を補うこともできます。

▽生育回復のため、窒素成分が主体の液肥を葉面散布する

成分が速効性で作物に良く吸収、利用されます。生育の促進や果実の肥大促進と品質向上、樹勢の回復・強化・維持に期待が持てます。※液肥を使用する場合は濃度に注意！濃い濃度で葉面散布すると障害が出る恐れがあります。薄めに希釈して使用するのがおススメです。

▽農作業をする「人」も注意する

猛暑が続く近年、熱中症による事故も多くなっています。外の作業が多い農作業をする際は、熱中症の予防をしっかり行ないましょう。

熱中症の初期症状に注意！

立ちくらみ・めまい・足がつるなどの初期症状に気が付いたらすぐに休憩と水分補給を行ないましょう。いつもと身体の調子が異なる場合は、「今年の夏はそんなもの」にまだ少し耐えれそう」と考えてはいけません。

熱中症の症状が出たら

- ① 涼しい場所（木陰や冷房の効いた室内など）に移動する。
- ② 衣服を緩めて安静にする。
- ③ 首や脇の下、太ももの付け根を冷やして体温を下げる。
- ④ 水分や塩分を少しずつ摂取する。

なりません。

台風の影響により運悪く落葉した場合は、風による生傷などを積極的に摘果しましょう。樹勢が弱ったと思い、肥料を施用したら、根がますます傷みます。カキは肥料よりも水が必要で、他の作物と同様の考えで肥培管理しないように注意しましょう。

モモ

▽夏季せん定

夏季せん定は、強樹勢を落ち着かせるための調整、樹冠内部まで日当たりをよくすることに由来する花芽の充実、冬季剪定の軽減が目的です。8月下旬〜9月上旬の収穫後に新梢の伸長が停止したところが目安です。不要な徒長枝や樹冠内部の立枝をせん除し、せん定量は30%程度までとします。

◎切り過ぎには注意しましょう！光環境を改善するために徒長枝の3分の2程度をせん定する。

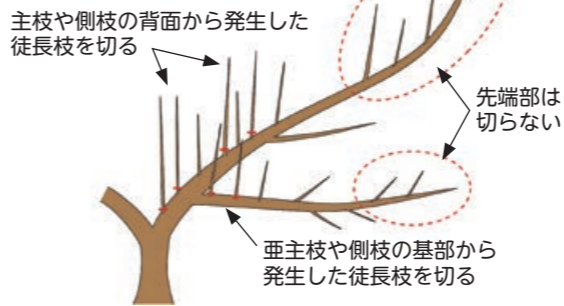


図1 モモの夏季せん定で切る枝

熱中症の予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。暑さをしのげるように帽子や通気性の良い服の着用や、こまめな水分補給や日陰での休憩をして無理のないように作業をしましょう。

片づけと残さ処理

夏野菜の多くは、8月中下旬が片づけ時です。片づけの際は、茎葉を十分に乾燥させて軽量化するのが重要です。こうすることで処分しやすくなります。

支柱仕立てのトマトやキュウリは支柱に誘引したまま根を引き抜いて1週間程度放置し、支柱から取り外します。ほかの野菜も、根を引き抜いてその場に倒しておけば、水分が抜け、かさが半分以下になります。スイトコーンの茎葉は、わらの代用品として再利用してもよいでしょう。残さは穴を掘って埋めるか、地域のゴミ出しルールに従って処分します。

茎葉を片づけた後、マルチがあればはがし、目についた太い根を取り除いて軽く耕しておきます。次の作付けが迫っている時は、すぐに苦土石灰を散布して(1㎡当たり100〜200g)、土壌酸度を整え、1週間ほどあけてから元肥を施すとよいでしょう。

① 雑草や古い根などは取り除く。スコップで30cmほどの深さまで掘り起こすと、土の中に空気が入り、通気性や水はけがよくなる。

ナシ

▽収穫

早く熟れる樹から収穫します。同じ園の中でも樹勢の強弱、日照の関係などで熟期の相違があります。また、一本の樹の中での熟れ方は、樹の先端部が早く、主幹に近い部分が遅れて熟れます。側枝の中では樹齢の古い枝が早く熟れます。このようなことから、一度に収穫せず、3回程度の分割採取を行ないましょう。

MEMO

夏に灌水したいものの、十分な水源が確保できない場合は、夕方に株元へ灌水を行ないます。この方法は、やむを得ない場合の方法なので可能な限り、水源の確保と土壌水分の保持に努めることを望みます。植物だけでなく、人も水分補給が必要です。暑い時間帯の長時間作業は避け、涼しい場所で休憩と水分補給を頻繁に行ない、熱中症にならないように気を付けましょう。



② 苦土石灰を1㎡当たり100〜200gまく。

③ 石灰と土壌がよく混ざるようにクワでよく耕す。1週間後、1㎡当たり堆肥2kg、化成肥料を1㎡当たり100〜200gまいてよく耕し、さらに1週間おいてからタネまきや定植をする。

湯+ポリマルチで日光消毒

7月下旬〜8月下旬の暑さを利用した環境に優しい消毒法です。畝を軽く耕し、全体に熱湯をたっぷり回しかけます。熱湯が用意できない場合は水でもかまいません。その後、透明のポリマルチを張り、2〜3週間放置します。こうすることで、ポリマルチの下は50〜60℃の高温になり、病原菌や害虫が死滅します。

土壌酸度を再調整

前作を片づけた後、石灰をまいてよく耕し、土壌酸度を整えます。石灰不足は野菜の生育を悪くするばかりか、病気などを引き起こす要因になることもあります。改めて酸度を測定し、多くの野菜に適したpH6.0〜6.5であることを確認すれば、より丁寧です。

野菜の好適pHは品目によって違うので、酸性土壌が苦手なホウレンソウやエンドウ、ソラマメなどはpH6.5〜7.0に、アルカリ性土壌に弱いジャガイモはpH5.5〜6.0に調整するとよいでしょう。

ときめき 女性部通信

おいしく学んで ヨシノクラフト商品講習会

JAひろしま女性部呉地区本部は6月下旬、役員会で「ヨシノクラフト」を招いて鍋講習会を開催しました。

講習会は「ヨシノクラフト」製品を使って鶏肉のソテー、赤飯、卵焼きを実演。試食や調理を体験し、今年度からJAひろしまで新たに扱う鍋「ヨシノクラフト」の商品について理解を深めました。



▲実際に鍋を試す役員

支部の垣根を越えて親睦 5年ぶりの1泊旅行

JAひろしま女性部呉地区本部は7月4日と5日、『日本総鎮守「山の神」大山祇神社参拝としまなみ海道絶景スポットめぐりの旅』と題して、しまなみ海道を通って愛媛県今治市へ親睦旅行に行きました。



1日目は、大三島の「大山祇神社」を参拝し、「伯方塩業株式会社 大三島工場」を見学しました。



夕食の宴会は
ビンゴ大会で
大盛り上がり！



2日目は、JAおちいまばり「さいさいきて屋」を訪ね、「タオル美術館」で織機を見学。帰りは多々羅大橋を望むレストランで海の幸などを堪能しました。

